

◇ 模擬講義のテーマ ◇

「コンピューターと日本の漢字」

◇ 解答例（模擬講義の内容の要約）◇

※下線部はキーワード、キーフレーズの使用例

コンピューターは一つ一つの文字に番号を振る文字コードによって文字を扱う。ところが、漢字は音や意味を表す字種が同じであっても、字の見た目すなわち字体の違い、字のデザインすなわち字形の違いが多くある。そのため、一つの文字を簡単に決めることができない。JISの文字コードでは漢字の字体・字形の違いを許容して同じと見なす包摂の考え方を導入し、包摂規準を定めることでこの問題に対処した。しかし、古い規格で包摂した漢字が人名用漢字で区別されているために新しい規格で分離されるなど、国の漢字政策の影響も受けている。（249字）

※キーワード、キーフレーズ

文字コード、字種、字体、字形、JIS、包摂（包摂規準）、漢字政策

◇ 評価基準 ◇

〔得点率〕

100%：6つまたは7つのキーワードに言及している。模擬講義の内容の理解に間違いがない。

80%：4つまたは5つのキーワードに言及している。模擬講義の内容をほぼ正確に理解している。

60%：3つのキーワードに言及している。模擬講義の内容の理解に所々間違いがある。

40%：2つのキーワードに言及している。模擬講義の内容の理解に多くの間違いがある。

20%：1つのキーワードにのみ言及している。模擬講義の内容の要点整理として著しく不十分である。

0%：白紙またはそれに準ずる答案である。模擬講義の内容の要点整理になっていない。

〔減点要素〕

- ・一般的な原稿用紙の使い方などの誤り
- ・誤字、脱字
- ・不自然な文章表現
- ・200字未満